伊豆東岸定置網における特異的入網

―マイワシ・マルソウダ・オアカムロー

近年、資源状態の悪化や黒潮大蛇行に伴う海況変化等の影響で、キンメダイ、スルメイカ、マアジ、サクラエビなど、県内の主要魚種の漁獲量は低調に推移しています。一方で、漁獲量の増加や、例年では獲れない時期や海域で漁獲がまとまるといった現象も見られています。本稿では伊豆東岸大型定置網（伊豆山、熱海、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、見高、谷津　※赤石漁場は現在稼働していない）(図 1) について、2020 年 1～3 月に特異的な入網のあったマイワシ、マルソウダ、オアカムロの 3 魚種の漁獲量データや市場での体長測定データを取りまとめました。

図 1　伊豆東岸大型定置網の位置

マイワシ

1982 年以降、連続して漁獲データのある伊豆東岸大型定置網 7 統（伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の 1～3 月の月別漁獲量の推移を図 2 に示します。2020 年 2 月のマイワシの漁獲量は 374.7 トン、前年比 6.4 倍、平年比 18.2 倍と 2 月の漁

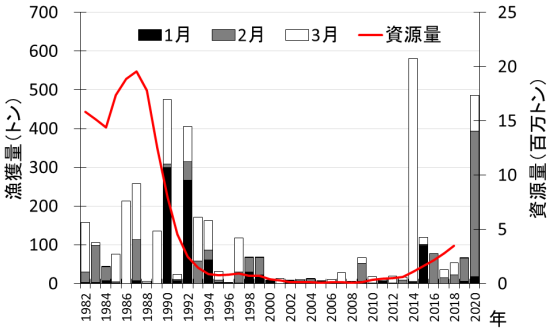

図 2　1～3 月のマイワシ月別漁獲量とマイワシ太平洋系群資源量の推移

獲量としては1982年以降最も多く、特異的な入網でした。主な漁場は川奈、次いで北川で、魚体は被鱗体長16～18cmの中羽および20cm以上の大羽サイズであり、2月前半は比較的大型の個体が多い傾向が見られました（図3）。また、ほとんどの個体で生殖腺が発達していたことから、産卵のために回遊してきた群であると考えられました。伊豆東岸定置網の1～3月のマイワシ漁獲量とマイワシ太平洋系群資源量には正の相関関係がみられ（R^2＝0.63）、近年の資源量は増加傾向にあることから、今回の特異的入網は、資源量の増加に起因するものと考えられました。

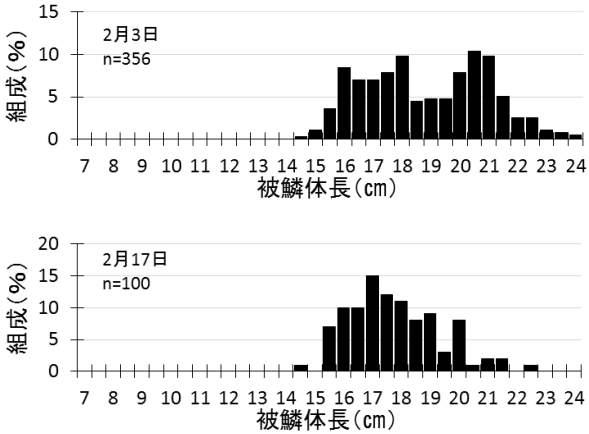

図3　2020年2月のマイワシ体長組成

3月以降もマイワシの漁獲は続きましたが、主な漁場は相模湾奥の漁場である伊豆山、古網に移り、漁獲量は93.1トン（平年比1.7倍）とほぼ平年並みに落ち着き、魚体も小羽～中羽主体となりました。一方、初島近海を漁場とするまき網漁船のマイワシ漁獲量は2、3月ともに多く、400トン以上でした。魚体は15～16cmの小羽～中羽主体でした。

マルソウダ

伊豆東岸定置網におけるマルソウダの漁獲量は、夏～秋に多く、冬～春は僅かです（マルソウダ年間漁獲量の1割未満）。しかし、近年は1月以降の漁獲量が増加傾向にあり、2020年1月の漁獲量は24.1トン、前年比1.7倍、平年比

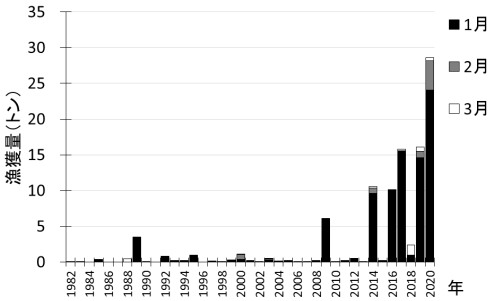

図4　1～3月のマルソウダ月別漁獲量の推移

14.1 倍、2 月の漁獲量は 4.1 トン、前年比 4.5 倍、平年比 52.1 倍と、1、2 月の漁獲量としては 1982 年以降最も多く、特異的な入網でした（図 4）。

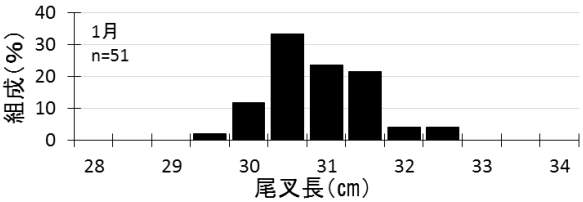

図 5　2020 年 1 月のマルソウダ体長組成

主な漁場は 1 月が谷津、次いで伊豆山、川奈、2 月は伊豆山、次いで川奈、古網で、魚体は尾叉長 30～32cm 主体でした（図 5）。

過去のデータを見ると、2020 年と同様に 1 月に漁獲量が多かった 2019 年の主漁場は北川で、魚体は 33～34cm 主体、2009 年の主漁場は北川で、魚体は 30～32 cm主体でした。また、その他の年の主漁場は（魚体測定データ無し）、2017 年が北川、2016 年が古網、2014 年が赤沢、1989 年が北川であったことから、1 月に入網が多い時は、北川が主漁場となる傾向にあると考えられました。北川漁場は外洋からの回遊魚が入網しやすい漁場であること、また、1986 年 12 月～1988 年 7 月および 2017 年 8 月～現在は、黒潮が大蛇行流路であることから、2020 年、2019 年、1987 年の 1 月に漁獲量が多かった要因として、黒潮大蛇行がマルソウダの相模湾内への来遊に好適に働いた可能性が考えられました。しかし、大蛇行流路ではない 2009 年、2014 年、2016 年の 1 月も漁獲量が多かったことから、黒潮大蛇行と 1 月の漁獲量との因果関係の有無を明らかにするには更なるデータ収集、分析が必要です。

オアカムロ

伊豆東岸定置網におけるオアカムロの漁獲量は、マルソウダと同様、夏～秋に多く、冬～春は僅かです。しかし、2020 年 1 月の漁獲量は 25.2 トン、前年比 119.5 倍、平年比 60.1 倍で、2 月の漁獲量は 9.2 トン、前年比 2299.8 倍、平年比 121.7 倍と、1、2 月の漁獲量としては 1982 年以降最も多く、特異的な入網でした（図 6）。主な漁場はいずれも北川で、魚体は 1 月が尾叉長 30cm 前後主体、2 月

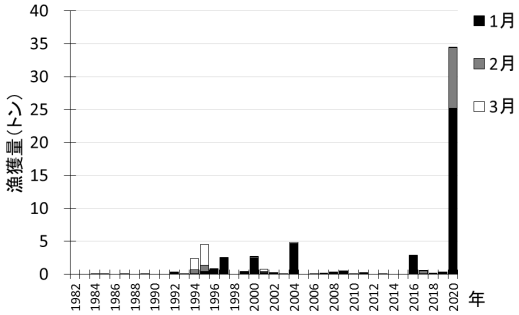

図 6　1～3 月のオアカムロ月別漁獲量の推移

は28cm前後主体でした。

過去のデータをみると、2020年と同様に漁獲量が多かった年の主漁場は、1997年1月が富戸、川奈、2000年1月が赤石（現在稼働していない大型定置網。図1）、富戸、2004年1月が北川、富戸、2016年1月が富戸であったことから、1月に入網が多い時は、富戸が主漁場となる傾向にあると考えられました。（魚体は過去の同時期のデータが無く比較できず）。オアカムロについてもマルソウダと同様に黒潮の大蛇行流路継続の影響で特異的な入網になった可能性がありますが、判断材料が乏しいため、今後も引き続きデータを収集し、実態の解明に繋げたいと思います。

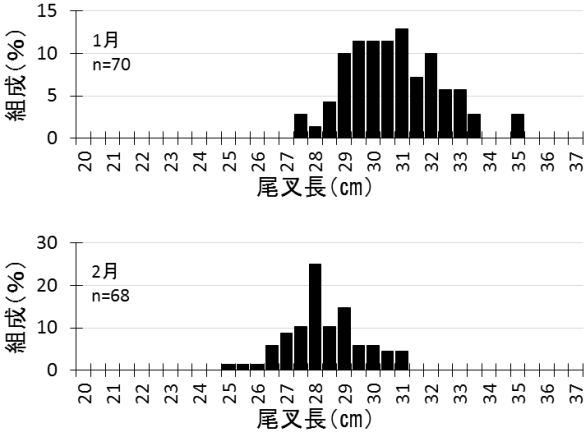

図3　2020年1～2月のオアカムロ体長組成

以上、マイワシ、マルソウダ、オアカムロの伊豆東岸定置網への特異的入網状況について述べましたが、これら以外にも「クサヤモロ」の特異的入網（伊豆分場だより356号）など、例年とは異なる現象が起きています。当場では、今後もこうした特異現象の把握、分析を行うとともに、特異的入網魚種の販路開拓などについて、定置漁業者の支援にも取り組みたいと思います。

（鈴木勇己）